

消費者動向調査 No.106

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 22 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 494 人、回答率 98.8%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	6.9
30代	22.9
40代	36.2
50代	24.5
60代	9.5

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	51.1
妻だけ	9.2
両方	39.7

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。



[調査結果本文]

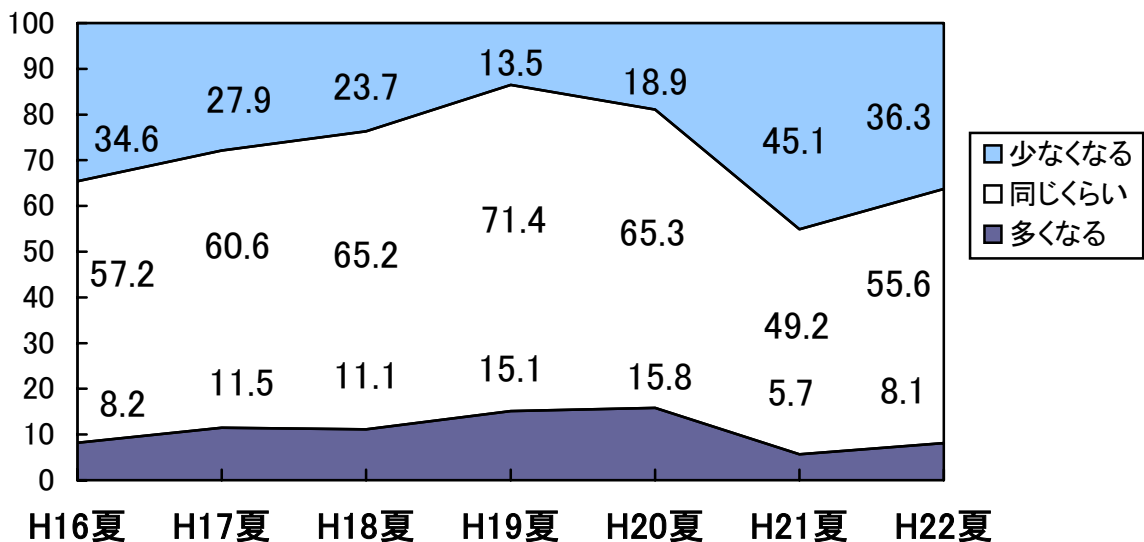
内閣府発表の4月の月例経済報告によると、「景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。」と示しています。当面、雇用情勢に厳しさが残るものの、企業収益の改善が続くなかで、海外経済の改善や緊急経済対策を始めとする政策の効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待されています。

このような環境の中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、昨年の夏と比較して「多くなる」は 2.4 ポイント増加。「少なくなる」が 8.8 ポイント減少。

夏のボーナスが昨年より「多くなる」と予想する割合は2.4ポイント増加して8.1%。2年ぶりに増加に転じた。「少なくなる」と予想する割合は8.8ポイント減少して36.3%。ボーナスが「少なくなる」と予想する割合は昨年より減少したが、依然として3割を超えている。

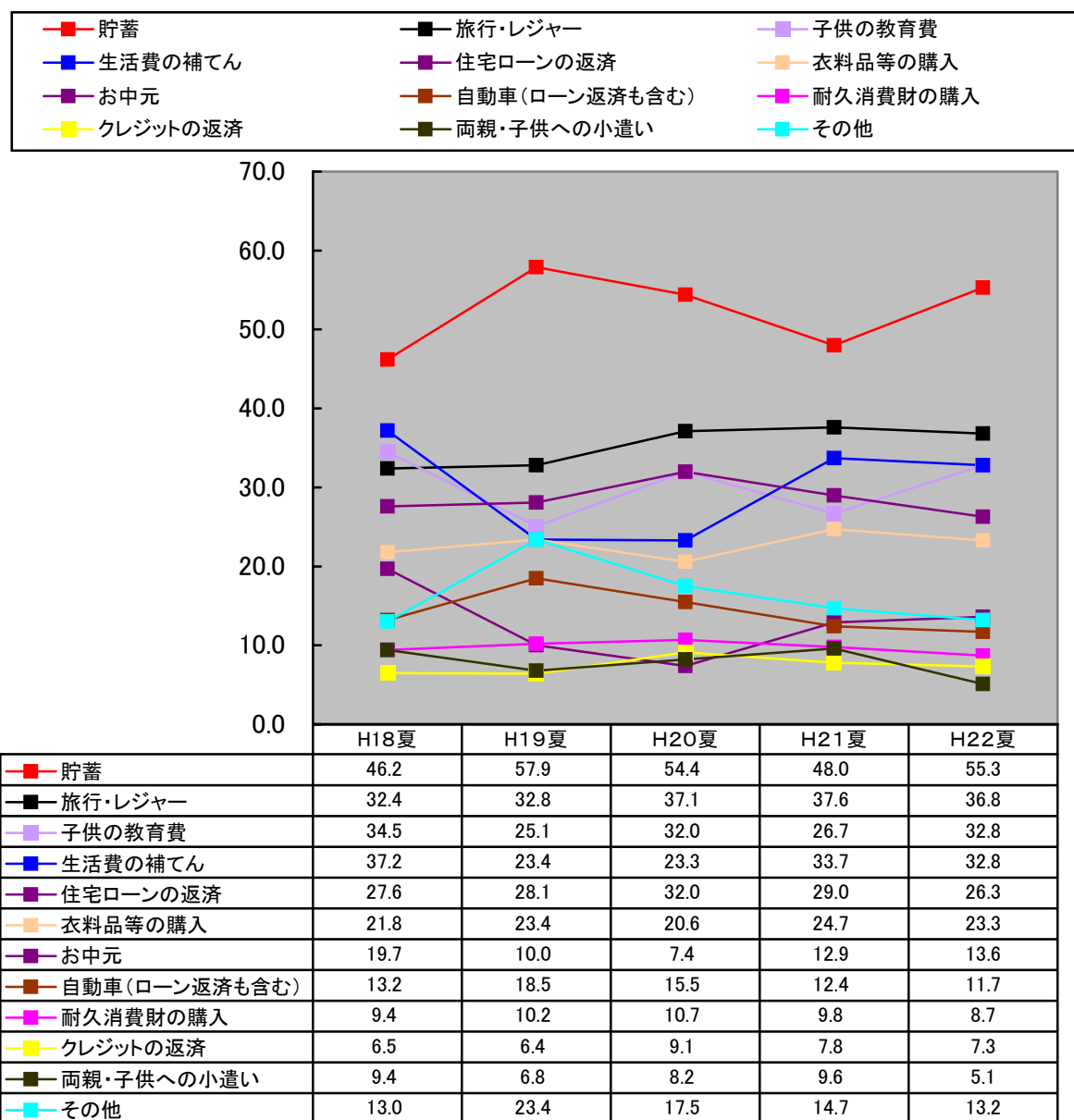
[グラフ1：今夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]
(単位：%)



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で55.3%。2位は「旅行・レジャー」で36.8%。3位は「子供の教育費」「生活費の補てん」で32.8%。

夏のボ - ナスの支出予定トップは「貯蓄」で55.3%。これは調査開始以来夏冬通し連続して1位。昨年の夏に比べ7.3ポイント増加している。2位は昨年同様「旅行・レジャー」で36.8%。3位は「生活費の補てん」と「子供の教育費」が同順位で32.8%。「子供の教育費」は、昨年の夏に比べ6.1ポイント増加して、5位から3位に順位を上げている。

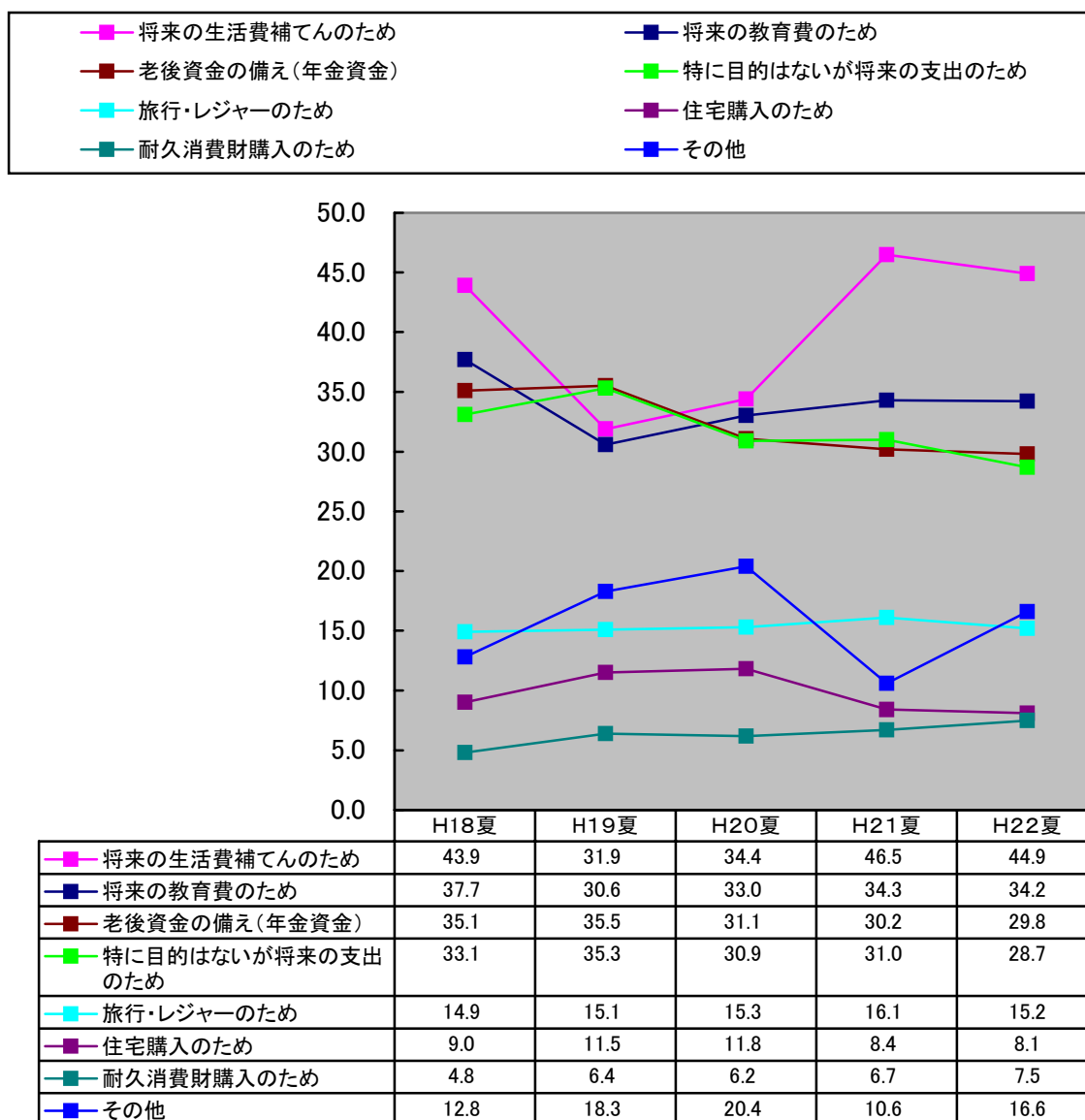
[グラフ2：今夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で44.9%。2位は「将来の教育費のため」で34.2%。

夏のボーナスを貯蓄する目的のトップは「将来の生活費補てんのため」が44.9%で、昨年の夏に比べ1.6ポイントと小幅に減少する一方、「その他」が昨年より6.0ポイント増加。ボーナスを貯蓄する目的が分散化しているようだ。2位は「将来の教育費のため」が34.2%と昨年に引続き高い。

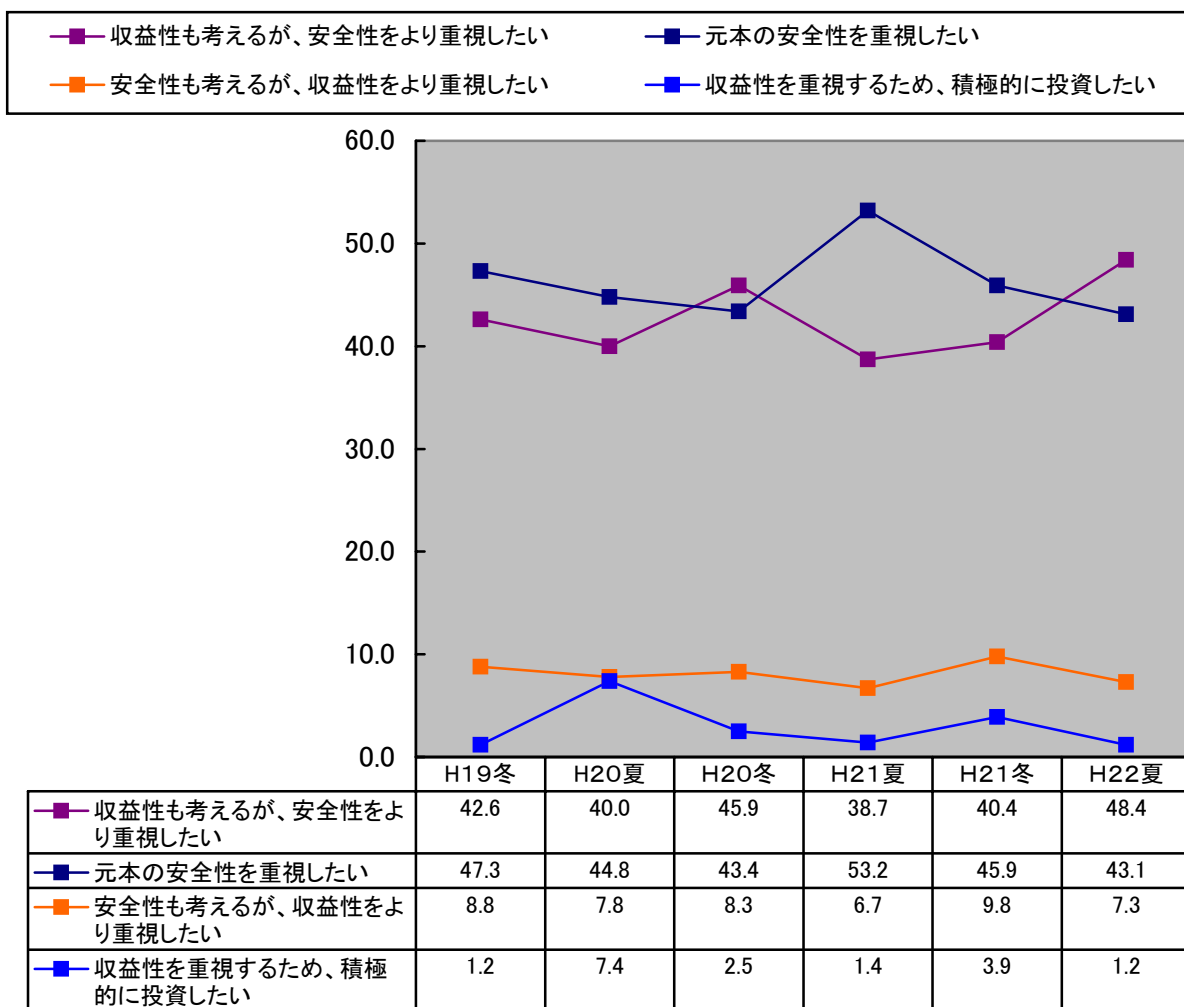
[グラフ3：将来の何のために今夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する場合の考えは、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が48.4%で1位。

夏のボーナスを貯蓄する場合、「元本の安全性を重視したい」が昨年の冬に比べ2.8ポイント減少し43.1%で2位。「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が昨年の冬に比べ8.0ポイント増加し48.4%で1年半ぶりに1位。約9割の人が安全性に重点をおいている点に変わりはないが、収益性を考える動きも少し出てきているようだ。

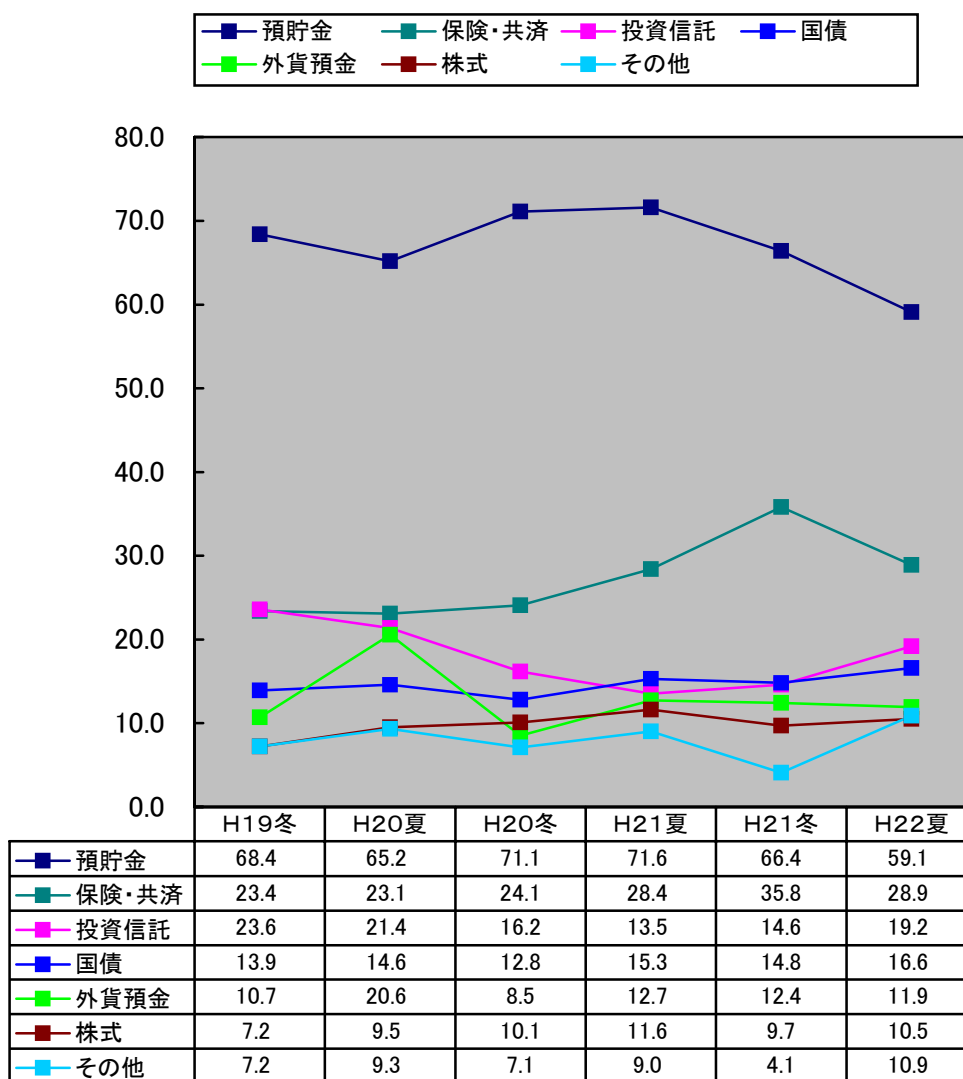
[グラフ4：今夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品は59.1%で「預貯金」が1位。2位は「保険・共済」で28.9%。3位は「投資信託」が今年の冬より順位をひとつ上げ19.2%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が59.1%で1位。2位は28.9%で「保険・共済」。3位は今年の冬より4.6ポイント増加し19.2%で「投資信託」。貯蓄から投資への流れが進展するなか、「投資信託」などでの運用に興味が戻ってきているようだ。

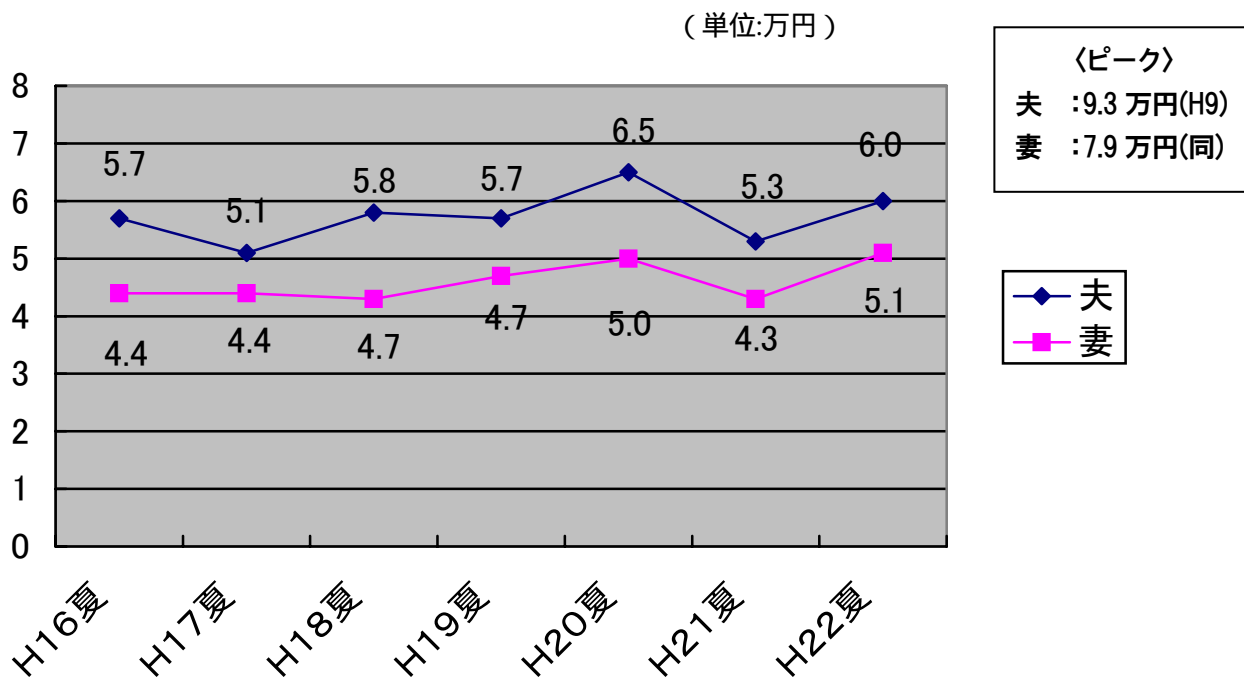
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]
（単位：％）



夏のボーナス、自由に使える金額は、今年の夏に比べて夫は 7 千円アップ。妻も 8 千円アップ。

今夏のボーナス、夫が自由に使える金額の平均は 6.0 万円（昨年夏比 +0.7 万円）。妻が自由に使える金額の平均は 5.1 万円（昨年夏比 +0.8 万円）。夏のボーナスが昨年より「多くなる」と予想する割合が増加したのを受けて、自由に使える金額も増加したようだ。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか]



この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺・大岡 まで
TEL 092-461-1869